

2026 年 9 月 18 日

TOPPAN 株式会社

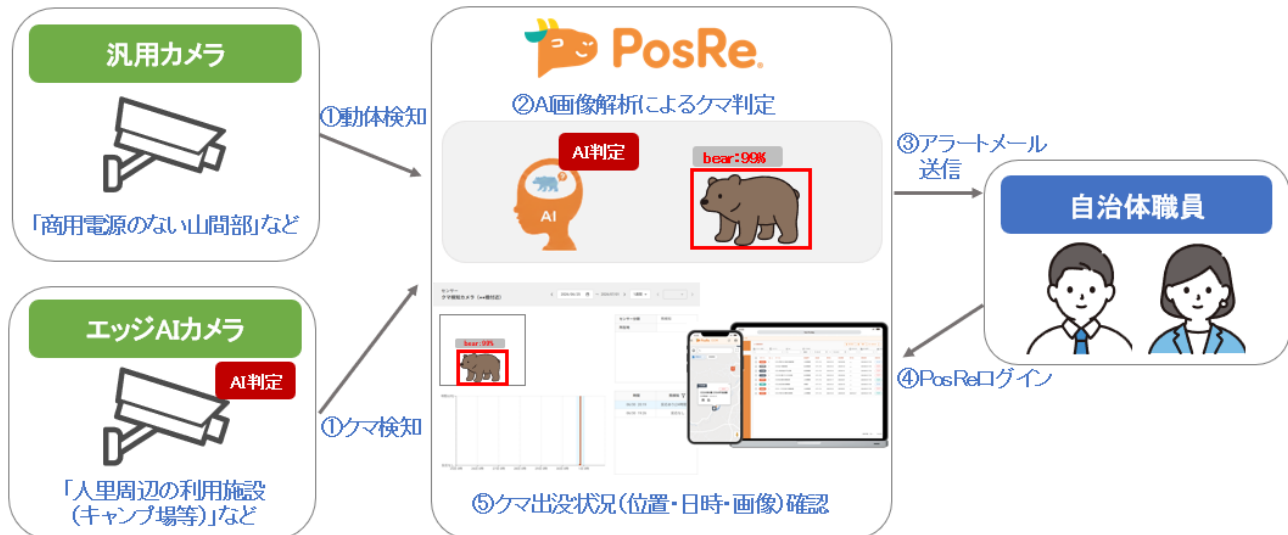
北海道二海郡八雲町

TOPPAN と北海道八雲町、
クマ出没の AI 検知・通報・対応状況の一元管理に向けた実証を開始
出没頻出箇所における早期発見とまちの情報集約・発信サービス「PosRe[®]」を活用した
迅速な情報連携により、自治体職員の初動負荷軽減を目指す

TOPPAN ホールディングスのグループ会社である TOPPAN 株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:野口 晴彦、以下 TOPPAN)と北海道二海郡八雲町(町長:萬谷 俊美、以下 八雲町)は、八雲町におけるクマ出没の早期発見と職員への迅速な情報連携・対応業務の負荷軽減を目的に、AI 画像解析によるクマ検知・通報・対応状況の一元管理に向けた実証実験を、2026 年 9 月 18 日から 11 月 30 日まで実施します。

本実証では、クマ出没に対してより迅速・確実な初動対応を実現するため、八雲町内で出没頻度が高い農地や道路などに汎用カメラや、撮影とデータ解析を端末内で行うことが可能なエッジ AI カメラを設置します。AI によるクマ出没の自動検知精度と、検知時の職員へのアラート通知、「PosRe[®]」(※1)を活用した情報確認に至る一連の運用フローの有効性を検証します。

本実証を通じて、クマの早期検知による住民の安全性向上とともに、これまでアナログで管理・運用していた出没情報、通知業務、状況管理などの獣害対策に必要な情報を「PosRe[®]」と連携することでシステム上で一元管理する有用性について検証し、八雲町における獣害対策の DX 実現を目指します。



クマ出没の AI 検知・通報・対応状況の一元管理に向けた実証実験の概要

■ 実証の背景

近年、全国的にクマの出没や市街地への侵入(アーバンベア)による人身や農業への被害、観光施設・キャンプ場の閉鎖といった経済損失などが全国的に深刻化しています。2024 年にはクマが国の「指定管理鳥獣」に追加され国費による対策強化が進む一方、猟友会の高齢化などによる現場監視やパトロールの担い手不足は深刻であり、人力に依存した従来の対応体制の見直しが課題となっています。

北海道八雲町においても、クマによる農業被害リスクや住民生活圏への出没リスクが常態化しています。町役場では、目撃情報が寄せられるたびに関係各所への電話連絡、現地への出動および状況の確認・記録、報告書作成などのアナログな業務が集中し、担当職員の大きな負担となっています。また、町役場

から距離がある山間部は、通知から現場確認までに時間を要することから、住民への注意喚起など初動対応の迅速化が喫緊の課題となっています。

TOPPAN は次世代 DX 開発拠点「ICT KŌBŌ」(※2)などにおいて、これまで培ってきた獣害対策における各種センサーや通信技術を組み合わせた見回り支援・捕獲検知に取り組んできた実績を有しています。この度、八雲町の課題に対して、多様な IoT データを一元管理する統合管理プラットフォーム「PosRe®」の追加機能として、TOPPAN が AI 画像解析によるクマ検知・通報自動化システムを新たに開発しました。「PosRe®」との連携により、検知された位置や画像情報の一元管理から対応状況の記録までをシステム上で集約・完結させる仕組みの検証を、八雲町と TOPPAN で実施します。本実証を通じて、現場職員の業務負荷軽減と住民の安全確保の実現を目指します。

■ 「PosRe®」と連携した AI 検知・通報・対応状況の一元管理の概要

・現場環境に合わせたカメラ構成の柔軟性

商用電源のない山間部には動体検知時のみクラウドへ画像送信するソーラー給電型の汎用カメラを、人里周辺の利用施設(キャンプ場など)には端末内で即座に判定を行うエッジ AI カメラを配置し、通信環境や設置条件に応じた最適な機器構成が可能です。



ソーラー給電型汎用カメラの設置

・「PosRe®」による情報の一元集約と初動の迅速化

カメラが捉えた検知結果は即時に「PosRe®」へ集約され、担当職員へアラートメールが自動送信されます。職員は、マップ上で位置情報や出没時の画像を確認することができ、迅速な初動判断へ移行できます。また、クマの出没検知だけでなく「PosRe®」上で他の防災情報や各種センサー情報と合わせた一元管理が可能です。今後は、住民向け公開サイトへの位置情報の自動公開、スピーカーや防災行政無線との連携、さらに罠センサーの作動状況も含めた総合的な獣害対策基盤としての拡張を目指します。

■ 本実証の概要

実験名称	AI 画像解析によるクマ検知・通報自動化の実証実験
期間	2026 年 9 月 18 日～2026 年 11 月 30 日
場所	北海道二海郡八雲町内(農地等、計 4 カ所を予定)
対象	屋外カメラ計 4 台(ソーラー給電型汎用カメラ 1 台、エッジ AI カメラ 3 台)

目的	八雲町におけるクマ出没の早期発見と職員への迅速な情報連携・対応業務の負荷軽減
内容	・山間部(農地など)へのカメラ設置 ・撮影画像からのクマ自動検知と「PosRe®」への自動データ連携 ・自治体職員へのアラート通知およびマップ上での出没情報(位置・日時・画像)の一元確認・管理
検証項目	・AI 解析精度:昼夜・天候変化を含む屋外環境下での検知精度、誤検知率の抑制評価 ・通信・ハードウェア安定性:ソーラー給電型汎用カメラおよびエッジ AI カメラの稼働安定性 ・業務実用性:「PosRe®」画面の操作性、現場確認・情報共有まで、従来のアナログ運用との比較における所要時間短縮効果
各社の役割	TOPPAN:本プロジェクトの統括推進、AI 画像解析によるクマ検知・通報システムおよび「PosRe®」の開発・提供、検証結果の分析・評価 北海道八雲町:実証フィールドの提供、実運用に伴うシステム評価および改善要望のフィードバック

■ 今後の目標

八雲町は、本実証を通じて得られた知見をもとに、AI カメラや「PosRe®」を活用した獣害対策の DX を推進します。システム上の一元管理による迅速かつ確実な初動体制の確立と職員の業務負担軽減を図り、データに基づく効率的な監視・防除体制を構築することで、先進的な自治体獣害対策モデルの確立および安全・安心で持続可能な町づくりの実現を目指します。

TOPPAN は、本実証で得られた検証結果をもとに、AI 解析アルゴリズムの高度化および「PosRe®」の機能改良を行い、2027 年度中に「PosRe®」へクマ検知・通報機能の追加提供開始を目指します。今後は北海道内の他自治体をはじめ、クマ被害に直面する全国の自治体や農林業事業者に向けて本機能の展開を目指します。また、シカやイノシシなど他獣種への検知対象拡大を進め、地域社会の安全・安心に貢献していきます。

※1 「PosRe®」:TOPPAN が提供する IoT 統合管理プラットフォーム。各種センサーやカメラからのデータを集約・可視化し、現場の業務効率化や遠隔監視を支援するサービス。<https://solution.toppan.co.jp/toppan-edge/service/posre.html>

※2 「ICT KŌBŌ®」:TOPPAN が全国各地に展開する、地域課題解決と新たな DX ソリューションの創出を目的としたオープンイノベーション・研究開発拠点。

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上